

高齢者用IT 操作しやすく

中小が事業拡大

ソフトウェアエンジニアリングは高齢者向けのパソコン講座で、タッチパネル式入力装置をアピールする

飲食店向けシステムのフラインフーズ(大阪市、川瀬哲也社長)はiPadで通販などの注文を出せるシステムを開発した。飲食店で来店客が自ら注文を出すシステムのノウハウを個人向けに転用し、有料老人ホームの運営会社に売り込む。運営会社が専用ソフトを搭載したiPadを入居者に貸し出す。端末の画面に電子書籍やDVDを購入する「見る」、旅行チケットや宿泊の手配を中心とする「遊ぶ」といった項目を表示。パソコンなどに詳しくない人

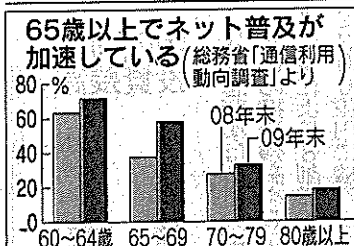
中小の情報システム会社が高齢者向け事業を拡大する。有料老人ホームの入居者などに、簡単な操作でネットを活用できる機器やソフトを売り込む。米アップルの多機能端末「iPad(アイパッド)」など、操作しやすいタッチパネル方式の端末の普及で、高齢者にもネットの利用が広がる見通し。大手に先駆けて商品化を進め、高齢者向けのIT(情報技術)市場を開拓する。

環境情報
デザイン研

iPad使い通販
手書きメール送信

でも、タッチパネルの感覚的な操作で好みの商品を選び購入できる。

商品は施設の運営会社や通販会社などと連携して用意する。フラインフ



新たな市場を創出

タッチパネルが後押し

インターネットサービスやIT(情報技術)機器は高齢者にも身近になってきている。総務省の通信利用動向調査によると、2009年末の65歳以上のネット利用率は36.9%で08年末と比べて8.8%上昇。65~69歳では58.0%と前年比20

1%を受け取るシステム利用料は端末1台あたり月7千円程度で、初年度200施設への導入を目指す。ソフト開発の環境情報デザイン研究所(東京・文京、白石昌二郎社長)は手書きのメールなどを送れるタッチパネル式のパソコンを貸し出すサービスを始め、テレビ電話や写真の整理、自分史作成などを手軽にできる機能も盛り込む。

企業、市民らが参加する「シニア社会学会」と連携して、パソコン初心者に使い方を教える態勢も構築する。11月には東京都内の集合住宅で社会実験を始め、来春までに本格運用を開始する。「買い物難民」を防ぐため地域の商店街との連携も検討する。料金は月3500円程度で初年度5000円の利用を目指す。

ソフト開発のソフトウェアエンジニアリング組む。阪南大学経営情報学部の学生と協力して、高齢者が使いやすいネットサービスの開発などにも取り組む。

ド操作には抵抗があって立つはず。人が介在する自動券売機や銀行のATMなどで広まっており、高齢者にも受け入れやすいための。こうした中、中小の情報システム各社は高齢者を対象にしたシステムやサービスをいち早く提供して事業拡大を狙う。

シニア社会学会会長の袖井孝子シニアお茶の水女子大名誉教授は「ITをうまく利用すれば、高

齢者の孤立の防止にも役立つはず。人が介在するなどして高齢者のIT利用をサポートする仕組みをつくれれば新たな市場を創出できる」と指摘する。